

学校教育目標	未来に向かって力強く生きる ひとみ輝く 和土っ子の育成
目指す学校像	一人ひとりがキラリと光る学校

重点目標	1 自分を大切に、相手を大切に学び合う学校 (すべての児童の可能性を引き出す学びの推進) 2 心身の健康を高め、思いやりの気持ちを育む学校 (健やかな心身を育て、安心できる学校づくりの推進) 3 信頼され、地域とともに歩む学校 (小・中一貫教育「花笑み教育」を通じた児童の自己実現と「地域共生」の実現) 4 きれいで、安心安全な学校 (施設設備の適切な維持管理 計画的な予算執行) 5 「チーム」和土でつくる持続可能な学校 (教職員のエージェンシーを育む働き甲斐のある職場)
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心身のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価			実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○多くの児童が、落ち着いて学習に取り組んでいる。 ○全国学力・学習状況調査の全国の平均値、さいたま市学習状況調査の市の平均値を下回っている。 (課題) ○児童に学ぶことの楽しさを十分に味わわせ、主体的に学ぶ意欲を高める必要がある。 ○国語力(表現力・語彙力・読解力)向上 ○反復や習熟に取り組む時間や、自らの学びを振り返る時間の確保が必要である。	・児童の[対話]や[協働]を重視した授業の実施	①学校課題研究「児童自ら気づき、自ら考える授業」をキーワードとした、児童同士が対話し、学び合う授業の実施 ②国語力向上に係る授業実践や、読書活動・NIE教育推進の取組の実施	①児童の学校評価「分かりやすい授業」の肯定的評価が93%以上になったか。 ②各教科で国語力向上に係る取組を実施できたか。				
		・「学びの探究コンパス」四つの柱と、ICT等を活用した授業の実施	①各教科で「学びの探究コンパス」の四つの柱の視点での授業改善 ②ICTを活用し、調べ学習や、学習の振り返りの実施とともに、反復学習の時間の確保	①教職員の学校評価「学びの探究コンパス」四つの柱の視点の授業に関する項目で肯定的評価90%以上になったか。 ②児童の学校評価「ICT等の活用」で肯定的評価98%以上になったか。				
2	(現状) ○単学級でクラス替えがなく、児童同士がお互いに分かり合っている様子が見られる。 ○教職員は児童一人ひとりに声をかけ、目を配り、安心できる信頼関係の構築に努めている。 (課題) ○児童が良好な人間関係を継続できるようにするとともに、保護者との連携を図る必要がある。 ○児童のエージェンシーを育み、自立と挑戦を促す指導を推進することが求められている。	・児童のよさを育む学級経営	①「和土小スマイルプロジェクト」の着実な実施 ②児童が自己決定する取組の実施や、「多様な他者と協働する」学びの推進	①「和土小スマイルプロジェクト」が実施できたか。 ②児童の学校評価「学校へ行くのが楽しい」で肯定的評価92%以上になったか。				
		・共に学ぶ喜びや運動の楽しさを味わう活動の実施	①コーチングの取組や、児童への積極的な称賛の言葉かけの実施 ②安全で楽しい体育科の授業の実施や、各種体力アップキャンペーン等の実施	①児童の学校評価「先生の称賛」で肯定的評価93%以上になったか。 ②体育科の授業や体力アップキャンペーン等において、安全で工夫した活動の場で、楽しく取り組む運動が実施できたか。				
3	(現状) ○学校運営協議会を各学期に一度開催し、学校・家庭・地域の役割等について熟議をしている。 ○異校種(保・中・高・大)間で連携している。 (課題) ○特色ある教育活動「小・中一貫教育『花笑み教育』」について保護者や地域の方々の理解を得て推進していくことが求められている。 ○「和土地域のアイデンティティ(地域のよさや誇りへの理解・地域への愛着)」を育てていくことが求められている。	・小・中一貫教育「花笑み教育」の推進	①城南中・新和小と連携した「小・中一貫教育『花笑み教育』」の推進 ②コミュニティ・スクールテーマ「和土地域で育てたい子どもの姿」の学校・家庭・地域での共通理解と、スクールサポートネットワークでの具体的な取組の明確化	①「小・中一貫教育『花笑み教育』」を計画的に実施できたか。 ②児童の学校評価で、「和土地域のアイデンティティ(地域のよさや誇りへの理解・地域への愛着)」に関わる項目で肯定的評価80%以上になったか。				
		・教育活動等の情報発信の推進	①学校だより・学校Webページ・地域情報紙・地域の商業施設・公民館等を活用した教育活動の情報発信 ②デジタル連絡ツールを活用した情報発信・情報共有の工夫	①教育活動を計画的に情報発信できたか。 ②保護者の学校評価No1「教育活動の発信」で肯定的回答が94%以上になったか。				
4	(現状) ○様々な施設設備に、修繕したい箇所がある。 ○教職員による定期安全点検と、管理職による敷地内点検や地域巡りを実施している。 ○個人情報管理し、定期的に点検をしている。 (課題) ○計画的に施設設備や、個人情報の管理点検を行い安心して活動できる環境を整備する必要がある。 ○安全に対する意識を向上させ、万が一事故が発生した際には、教職員が適切な行動がとれるようにする必要がある。	・きれいで安心安全な環境整備の実施	①施設設備の計画的な安全点検、日常の保健衛生、給食等における安全管理を徹底した危機管理体制の整備 ②施設設備に関する教育委員会との連携や、学校DX推進本部を活用した情報セキュリティの整備	①全職員による安全点検の実施と、修繕等が必要な箇所への1日以内の対応ができたか。 ②計画的な施設設備の管理や、個人情報の管理ができたか。				
		・安全に関する教職員の意識の向上	①AED、エビベン、不審者対応等、安全に関わる教職員研修の実施 ②学校・保護者・地域と連携を図った、安全教育的な取組	①安全に関わる研修を5回以上できたか。 ②保護者の学校評価No.7「学校は子どもの安全や健康を十分配慮して教育している」で肯定的回答が90%以上になったか。				
5	(現状) ○教育委員会の施策に基づき、授業改善や、小規模校としての業務改善を進めている。 (課題) ○「学びの探究コンパス」の四つの柱を視点にした指導力を常に向上していく必要がある。 ○教職員の資質能力の向上と育成を図るとともに、教職員のエージェンシーを育み「働き甲斐のある職場」づくりをさらに進める必要がある。 ○「さいたま市立学校における働き方改革マスタープラン」を踏まえた教職員の業務量管理・健康確保措置を確実に実行する必要がある。	・学校課題研究等を活用した教師の主体的な学びの推進	①「学びの探究コンパス」の四つの柱を視点にした公開授業・研究授業の実施 ②教職員同士の年3回以上の授業参観の実施と「対話に基づく受講奨励」による、主体的な教師の学びの推進	①「学びの探究コンパス」の四つの柱を活用した公開授業・研究授業等が実施できたか。 ②教職員相互の年3回以上の授業参観ができたか。				
		・教職員の資質向上につながる働き方改革	①教職員の自己研修への積極的な取組と相互の研修による教育活動の活性化 ②業務改善委員会(年3回)による業務改善の推進と教職員の業務の進捗管理 ③教職員の心身の健康確保を意図した校長面談と同僚性のある職員室づくり	①教職員の学校評価「研修」の項目の肯定的評価が90%以上にできたか。 ②業務改善による教職員の月平均時間外在校時間30時間以内の維持 ③各学期のはじめと終わりに校長面談(OneOnOne)を実施できたか。				